アバンギャルディ／咲くやこの花インタビューvol.52

アバンギャルディ【令和7年度　演劇・舞踊部門[ダンス]】

2026 年もさらに飛躍「世界のいろんな場所でパフォーマンスしたい！」

振付師・akane がプロデュースする女性ダンスチーム、アバンギャルディ。2022 年 2 月に結成され、活動拠点は大阪。おかっぱ頭に制服姿の 16 人が見せる一糸乱れぬダンスで、「謎の集団」として TikTok や Instagram を中心に世界的な話題を呼び、2023 年にはアメリカの人気オーディション番組『America’s Got Talent』の決勝へ進出しました。SNS 総フォロワー数は 500 万人を突破し、台北・香港・マレーシア・バンコク・シンガポールなどで単独ライブを開催するなど、国内外で精力的に活動を展開しています。

大阪・関西万博では開会式に出演し、閉幕日にはミャクミャクと踊るなど、万博の盛り上がりにも貢献しました。大阪の地でのパフォーマンス動画は SNS を通じて国内外に広まり、大阪から発信される文化の存在感を強く印象づけてきました。独自の世界観と高い表現力で注目を集めるアバンギャルディは、これからの大阪文化の発信・発展を担う存在として、ますます期待が高まっています。

受賞者インタビューでは、sono さんと nagano さんにご登場いただきました。

取材・文／岩本和子

衝撃を受けた振付師 akane のダンス

「咲くやこの花賞」受賞、おめでとうございます。受賞されたご感想を教えてください。

sono：歴代、たくさんの方が受賞されている名誉ある賞をいただけて、本当に嬉しく思っています。私たちは大阪出身、大阪が地元のチームなので、大阪でこのような素敵な賞をもらえたことも本当に嬉しく思っています。

nagano：この歴史の長い賞をいただけて、本当に心から光栄です。私たちもずっと大阪でやってきたグループなので、大阪で歴史ある賞をいただけたことは、私たちのこれからのキャリアにもつながってくるんじゃないかなと思っております。

では、アバンギャルディのプロデューサー、akane さんとの出会いや、グループに加入された経緯を教えてください。

sono：私は中学生のときに、akane さんが登美丘高校ダンス部の振付をされている作品を見て衝撃を受けて、「この高校のダンス部に入りたい」と思って受験しました。そこからダンス部に入ったのが、すべての始まりです。
部活を通して踊っていく中で、卒業してからも akane さんのもとでダンスを続けたいと思うようになって、akane さんのレッスンに通い、アバンギャルディのメンバーになりました。

nagano：私も登美丘高校出身で、実は sono の先輩なんです。経緯もほとんど同じで、中学生の頃に akane さんの作品を見てダンスに一目惚れしました。それまでダンスはやっていなかったんですけど、「akane さんのもとでやりたい」と思って高校に入学して、そこからアバンギャルディにつながっています。

sono さんのダンス経験を教えてください。

sono：小学校 1 年生の時にダンスを始めて、中学に入って 2 年ほど離れた時期があったのですが、akane さんの作品に出会って、またダンスがしたいなと思えるようになって、ダンス部に加入することになりました。

nagano さんはダンス経験はなかったと。

nagano：バレエをちょっと習っていたんですけど、ジャンルも全く違ったので、本当に初心者からのスタートでした。

お二人は akane さんのダンスのどこに感銘を受けたのでしょうか。

nagano：私はおばちゃんダンスに衝撃を受けました。たまたまつけたテレビで高校ダンスのチャンピオンの密着をやっていて、それが akane さんのおばちゃんダンスの特集でした。見た瞬間に目を奪われて、この高校に入ってダンス部に入ろうと、その番組で決めました。

sono：私はレオタードを着て『ヒーロー』を踊っている作品が初めて見た作品だったんですけど、ダンスを見て「面白い」と思ったのは自分の中で初めてで、すごい衝撃を受けました。今まで見たことのないダンスだったので、やってみたいな、挑戦してみたいなという気持ちが一番にありました。

それまでのダンスのジャンルは？

sono：ガールズヒップホップです。

登美丘高校の 3 年間はいかがでしたか。

sono：憧れの部活動だったので、最初はすごくドキドキしていました。コミカルなダンスも初めてで、少し恥ずかしさもあったんですけど、部活を通して新しい自分に出会えた気がしています。
自分の中にある“面白い一面”を見つけられた 3 年間でした。それまで人前で変顔をすることもなかったですし、最初はやっぱり恥ずかしかったんですけど、自分の殻を破るという意味でも、すごく成長させてもらった高校生活だったなと思います。

nagano：実はちょっとシャイな性格だったんです。でも心の中には「表現したい」「面白いことがしたい」という気持ちがずっとあって、それをようやく爆発させることができた 3 年間でした。
私からすると先輩たちはみんな芸能人みたいに見えていて、「どうやって技を盗もう、真似しよう」と考えながら必死についていっていました。

シャイな一面を乗り越えたエピソードはありますか？

nagano：高校 2 年生の夏に初めてダンスの大会に出場したのですが、ソロのオーディションがあって、どうしてもやりたかったので、オーディションに合格するために自分で試行錯誤したのが一番のきっかけかなと思っています。

sono さんも何か思い出すエピソードはありますか？

sono：私は、初めて大会のオーディションに合格したのがアメリカの大会で、私が初めて見た登美丘高校の作品『ヒーロー』をブラッシュアップしたものを披露する時でした。憧れていた作品を踊るとなった時に、リスペクトの気持ちがすごくあって、もちろん先輩方が踊ってきたものも表現したいけど、それ以上に今のメンバーでしかできない作品を踊りたいという気持ちもあって。そこで自分がどう表現したらいいのかを考えた時、一気に自分の表現力がグッと上がった気がしています。

ジャンパースカートにおかっぱ？

そんな 3 年間を過ごされて、akane さんのレッスンに通ったのちにアバンギャルディを結成されましたが、結成は卒業してから時間が経っていたのでしょうか？

sono：そうですね。卒業してから数年経っていました。ダンスの大会に出るために初めてチームが作られました。

その時からすでにアバンギャルディのコンセプトは決まっていたんですか？

sono：はい。初めて着た衣装が、今も私たちが着用している制服・おかっぱスタイルでした。akane さんの頭の中には、もうイメージがあったんだと思います。

第一印象はいかがでしたか。

nagano：困惑しました（笑）。アバンギャルディとして作ったダンスが『かもめが翔んだ日』という作品だったのですが、私の頭の中ではもうちょっとコンテンポラリーっぽい衣装なのかなと思っていたので。用意された衣装が学生服で、想像がつかないぞっていうのが初めての感想でした。

sono：私は結構派手な衣装とか、ぱっと映える衣装にするのかなと思っていたので、ちょっと地味じゃないのかなって思っていたのですが、初めてメンバー全員で衣装を着て踊った時に、スカートの動きやおかっぱの髪の動きがすごくマッチしていて、ターンした時も華やかに見えて、akane さんはここまで想像していたんだなって、すごくびっくりしました。

いつも一糸乱れぬダンスを楽しませてくださいますが、練習はどういうふうにされているのでしょうか？

sono：振り付けができた瞬間から、ミリ単位で角度を合わせていきます。メンバーが一人ずつ前に立って、他のメンバーの動きを確認していくという工程を入れ替わりでやったり、リハーサルで撮った映像をスクリーンショットして、「〇〇さんはここがずれています」とか、細かく細かくメンバー同士で確認して、完璧な動きを作り出しています。

nagano：振り付けのルールを自分たちで決めて、自分たちの体になじませていく感じです。

アバンギャルディのダンスは、高校でやってきたこととやはり違いますか。

sono：そうですね。私たちはやっぱりプロとして、どのステージでも完璧なショーを見せないといけないので、それが絶対にできるように練習しています。あとは、16 人のメンバー全員が作品をよくしていきたいという気持ちがあるので、時には意見がぶつかる時もありますが、意見をたくさん言い合いながら作品を作っています。そこが部活動とは少し違う部分かなと思っています。

nagano：もちろん難しい振り付けもあって、なかなかうまくいかない時もあるんですけど、みんなそれぞれしっかり信念を持っていて、妥協せずに練習しています。
もともと同じ部活でやってきたメンバーもいれば、外部から加わった子たちもいるんですけど、カンパニーとして一緒に過ごしてきた時間が長いので、今では家族や友達みたいな存在です。だから、少し余裕があるときは、みんなでワイワイしながら楽しく練習しています。

賑やかそうですね。

sono：みんな関西人なのでうるさいです（笑）。

個人と集団のバランス感覚

集団で魅せることと、個性を発揮するバランスは、どういうふうに意識していらっしゃいますか？

sono：全員同じことをしているように見えて、実は一人ひとり、違った表情をしている時もあって。全員真顔でも、目の開け具合や口角の上げ下げを一人ひとり調節しているので、一人ひとりの個性を合わせて 16 人の個性になっているのかなと思っています。同じ動きをしている中でも、ちょっと面白い表情がパッと見える時に、集団と個人のコントラストというのがすごく映えるなと思っていて、そういうところでも個性っていうのが出ているのかなと感じています。ファンの皆様の中には、一人ひとりの違いを見つけてくださる方がいて、そういう違いを見つけるのも、私たちのグループのパフォーマンスを楽しんでいただく一つの方法かなと思っています。

nagano：私たちは集団のダンスをしていますが、その中でも個人個人のシーンがあって、そこで自分たちの個性を爆発させる機会が多いです。それこそ表情や踊り方など、自分の見せ方を日々研究しています。そういうところを皆さんに見ていただけたらなと思います。あとは、個人個人の SNS のアカウントがあって、そっちは完全にセルフプロデュースになっています。私は表情が得意なので、そういうところに特化した動画を作成しています。

2025 年は大阪・関西万博でも活躍！

2023 年にはアメリカのオーディション番組の『America’s Got Talent』の決勝にも進出されました。思い出を聞かせてください。

sono：学生服スタイルでステージに出ていったので、最初は「何が始まるんだろう」と思われている空気を感じていました。でも、踊り始めて１秒で「わー！」って会場の反応が変わったのがわかって。
踊り終わったあとにはスタンディングオベーションが起きて、それを経験したのが初めてだったので、本当に感動しました。その瞬間、「自分たちのスタイルは間違っていなかったんだな」と感じましたし、言語を越えてダンスで世界と通じ合えたというか、ちゃんと楽しんでもらえたんだなと実感しました。

nagano：チームでアメリカへ行くのが初めてでしたし、慣れない環境の中ですごく不安でした。かっこいいチームはたくさんいますが、私たちはコミカルなダンスのチームだったので、どう受け取ってもらえるか、すっごい不安の中でのダンスでしたが、それこそ終わった後のスタンディングオベーションは経験したことのない高揚感がすごくて、本当に忘れられない体験でした。

2025 年は大阪・関西万博でも大活躍されました。どんな１年でしたか？

sono：akane さんが万博誘致の頃から携わっていて、私たちも大阪・関西万博に携わらせていただくことができ、歴史に残るこの瞬間に立ち会えたことを本当に嬉しく思っています。万博でのパフォーマンスを通して、いろんな方に知っていただけるきっかけになったので、私たちにとってすごく大切な１年だったなと思っています。

nagano：登美丘高校の時代から私たちも万博の誘致に携わっていたので、開会式に参加させていただいたことは本当に光栄で、今でも信じられない気持ちでいっぱいです。私たちは日本から世界に羽ばたいていく、日本をアピールしていくということを念頭にパフォーマンスしているので、世界的なイベントである大阪・関西万博に関われたことは今後の私たちの糧にもなると思っています。

お笑い文化と大阪のおばちゃん

最後のご質問です。お二人が大阪市に「咲くやこの花賞」を贈呈されるとしたら、大阪市の何に贈られますか？

sono：大阪のお笑い文化に「咲くやこの花賞」をあげたいと思います。私たちは大阪人として「面白い」を追求しているチームで、大阪の笑い文化からも学ばせてもらって、取り入れています。これからもお笑い文化も取り入れつつ、世界にも発信していけたらいいと思っているので、大阪のお笑い文化に贈りたいです。

nagano：私は大阪のおばちゃんです。大阪は私たちのことを知っている方が多いので、皆さんのエネルギーが大好きです。